

カトリック

# 広島教区報

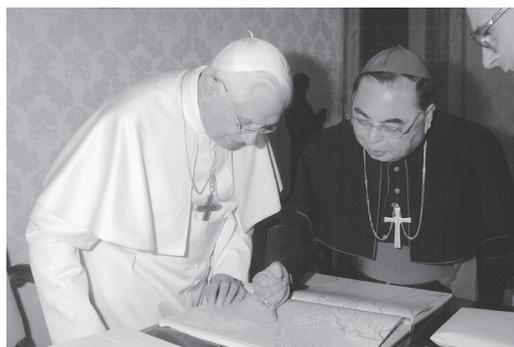
## 復活祭のよろこび

カトリック広島司教区長

三末 篤實 司教

キリストの御復活のおよろこびを申しあげます。灰の水曜日から四旬節、御受難節を通して、キリストの十字架の道・救いの道を考えながら復活祭の準備をして参りました。

このキリスト復活の大祝日は、カトリック教会の教義の中でも最も大切で、重要な意義を持っています。



私たちの生涯の目的・永遠の目的がそこにあるからです。この神秘のお恵みが全ての人に行き渡りそして神の国が早く完成に近づきますように希ってやみません。

今年度広島教区は「平和の使徒となろう」今、殉教を生きたら「？」をモットーにかかげました。来る十一月二十四日(月・祝)には長崎にて「ペトロ岐部と百八十七殉教者」の列福式が行われます。一人でも多くの方が参加されることを期待しています。この広島教区からも五名の殉教者が列福されるのです。みんなでお祝いし、殉教者の模範に倣いたいと思います。昨年末、日本の司教団は公式訪問(アド・リミナ)

No. 72

カトリック  
広島司教区

発行責任者  
広報担当  
服部大介 神父

広島市中区鞆町 4-42  
広島司教館内  
TEL (082) 221-6017

のため、ヴァチカンを訪問いたしました。私にも個人謁見があり、親しくお会いする機会が与えられ感謝しております。教皇様は日本地図を示しながら広島教区の位置を確認され、教区の状態について質問されました。信徒の皆さんのこと、諸秘跡のことなどについて短い時間の中でお話いたしました。最後に広島教区のすべての皆さんのうえに教皇の祝福を特別にお与えくださいました。教皇様は大変柔和で優しいお方でした。私たちは教皇様のお働きのおかげに必要なる神の恵みをお祈りいたしました。現代社会は決して安心できる平和を享受できる状態ではありません。私たちは常にお祈りを忘れることなく教区のモットーを実現できるような努力して参りましょう。

皆さんのうえに神の祝福を祈りつつ…

### 御復活おめでとうございます

広島教区長  
司教総代理

三末 篤實 司教  
斉藤 眞仁 神父

山口教会

松村 信也 神父

教区本部事務局  
平和の使徒推進本部事務局  
広島司教館  
(日本語研修  
(休養・研修)

原田 豊己 神父  
肥塚 倅司 神父  
野間 重信 神父  
李 尚潤 神父  
澤野 耕司 神父

防府教会

田丸 篤 神父  
父路門 篤 神父  
モラーレス 神父  
パリオヌエボ 神父

広島地区

(休養・研修)

後藤 正史 神父  
後藤 正史 神父  
アルベルト 神父  
斉藤 眞仁 神父  
尾島紀代治 神父  
山根 敏身 神父  
カトレット 神父  
松井 紀直 神父  
ジェリー 神父

岩国教会

恩地 誠 神父  
泉 類治 神父  
オレギ 神父

観音町教会

(協力)

徳山・下松・光・柳井教会

宇部小野田ブロックチームミニストリー

アルテイリョ 神父  
阿レックス 神父  
三喜田虎太 神父  
アルカラ 神父  
西山 和男 神父

祇園教会

(協力)

宇部・北若山・高千帆教会

細江・彦島・長府教会

小崎 次郎 神父  
リントホルスト 神父  
中村 健三 神父  
李 相源 神父  
林 尚志 神父  
薄田 昇 神父  
木村 信行 神父  
モレノ 神父  
バラ 神父  
山根 敏身 神父  
瀬戸 勝介 神父  
ラフオント 神父  
近藤 信 神父  
真辻 洋二 神父  
外川 直見 神父  
三宅 秀和 神父  
河村 剛修道士  
ヘンゲラー 神父  
マカゲレル 神父  
ベニテス 神父  
ヘルタニヨリオ 神父  
李 聖一 神父  
柳田 敏洋 神父  
松島 忠雄修道士  
清水 弘 神父  
塚田 健統 神父  
牛尾 幸生 神父  
ホントレー 修道士  
ロサド 修道士  
牧田 真一修道士  
ヘンダリクス修道士

呉教会

(担当)

長谷川 儀 神父

下関ブロックチームミニストリー

三喜田虎太 神父  
アルカラ 神父  
西山 和男 神父

廿日市教会

(担当)

原田 豊己 神父

下関労働教育センター

中村 健三 神父  
李 相源 神父  
林 尚志 神父  
薄田 昇 神父  
木村 信行 神父  
モレノ 神父  
バラ 神父  
山根 敏身 神父  
瀬戸 勝介 神父  
ラフオント 神父  
近藤 信 神父  
真辻 洋二 神父  
外川 直見 神父  
三宅 秀和 神父  
河村 剛修道士  
ヘンゲラー 神父  
マカゲレル 神父  
ベニテス 神父  
ヘルタニヨリオ 神父  
李 聖一 神父  
柳田 敏洋 神父  
松島 忠雄修道士  
清水 弘 神父  
塚田 健統 神父  
牛尾 幸生 神父  
ホントレー 修道士  
ロサド 修道士  
牧田 真一修道士  
ヘンダリクス修道士

三原教会

(担当)

山口 道晴 神父

津和野教会

木村 信行 神父  
モレノ 神父  
バラ 神父  
山根 敏身 神父  
瀬戸 勝介 神父  
ラフオント 神父  
近藤 信 神父  
真辻 洋二 神父  
外川 直見 神父  
三宅 秀和 神父  
河村 剛修道士  
ヘンゲラー 神父  
マカゲレル 神父  
ベニテス 神父  
ヘルタニヨリオ 神父  
李 聖一 神父  
柳田 敏洋 神父  
松島 忠雄修道士  
清水 弘 神父  
塚田 健統 神父  
牛尾 幸生 神父  
ホントレー 修道士  
ロサド 修道士  
牧田 真一修道士  
ヘンダリクス修道士

福山教会

(協力)

深堀 升治 神父

長東修道院

濱田教会  
益田教会

向原教会

(司教館から)

深堀 升治 神父

長東修道院

濱田教会  
益田教会

松江教会

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

岡山・鳥取地区

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

岡山教会

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

西大寺集会所

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

榑灯センター

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

岡山南教会

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

笠岡教会

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

倉敷・玉島・水島教会

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

玉野教会

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

津山教会

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

倉吉教会

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

鳥取教会

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

米子教会

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

山口・島根地区

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

カピエル修道院

(協力)

萩 喜代治 神父

益田教会

濱田教会  
益田教会

愛徳修道士会

「今、殉教を生きるとは？」  
**「平和の使徒となろう」**  
 平和の使徒推進本部

二月九日(土)、平和の使徒推進本部の定例会議において、次の議題について話し合われた。

①教区全体に関する事項  
 【ペトロ岐部と百八十七殉教者列福に向けて】

十一月二十四日の殉教者列福式に向けて教区専用プレゼンテーション資料の作成を進めている。

ポイントとしては、殉教者の生き方を中心に、今私たちに何が求められているか、何をすべきか、という内容を予定している。

この資料の完成後、多方面で活用され、知識や意識向上に役立つものと期待するものである。

また、列福式当日の広島教区民の参加については、これから詳しい内容が決まってくるが、現在、教区事務局と旅行会社にて旅行日程の計画案を提示し、四百名の宿泊を確保している。列福式当日の募集要綱など詳しいことが決まり次第、

教区民にお知らせし、参加を募る予定である。

【世界平和記念聖堂の保存活用について】

現在、世界平和記念聖堂の保存活用に関し、専門の委員会を立ち上げる準備を進めている。

最終的な委員会の発足は、六月八日開催予定の教区宣教司牧評議会決定する。

四月十五日(火)世界的に有名な彫刻家、外尾悦郎氏をお迎えし、講演会「私にとつての聖堂」ガウディに魅せられて」を開催する予定。

主催は平和の使徒推進本部、入場は無料であるが、世界平和記念聖堂維持募金をお願いする予定。

②平和の使徒推進本部の体制と運営の確立について

司祭の異動により、平和の使徒推進本部体制の見直し、全体的な運営の確立が必須となっている。その中で、以前から課題であった

〈三面下段へ続く〉

**広島 熊谷豊前守元直** (メルキオール熊谷豊前守元直 その一)

メルキオール熊谷豊前守元直は、「平家物語」に登場する熊谷次郎直実(一二〇八年没)の子孫です。

直実は、一の谷の戦いに敗れた平家の若武者平敦盛を「後の御孝養をこそ仕候はめ」と語りかけ討ち果たし、後に、法然上人の弟子となり出家し蓮生房と称しました。

熊谷氏は安芸国三入庄(現在の広島市安佐北区可部町)の地頭職を与えられ十三世紀後半に三入庄に移住してきました。当初は、武田氏の指揮下に属していましたが、毛利元就の台頭に伴い毛利氏に従うことになりました。

熊谷元直は毛利家の重臣でした。そればかりでなく、叔母は毛利元就の次男吉川元春の妻であり、熊谷家と毛利家の関係は非常に親密だったのです。

元直が生まれたのは、一五五五年、毛利元就が厳島合戦で勝利し、中国地方の覇権を掌握した年でした。

二十五歳で可部三入の高松城の城主となり、以後、典型的な戦国武将として活躍しました。

受洗のきっかけは、「片手には刀、片手には十字架」といわれたキリシタン武士の黒田孝高との出会いでした。彼の感化を受けて、一五八七年の復活祭の頃、豊前国中津で、毛利元就の七男毛利秀包、大友宗麟の長男大友義統などと洗礼を受けました。洗礼名はメルキオール。

受洗は、秀吉の「九州遠征」の最中でしたが、以前の「四国遠征」、受洗以後にも「小田原攻め」、二度の「朝鮮出兵」と戦いに明け暮れた元直の信仰は「消えかかる灯心」(イザヤ書)のようでした。

メルキオールの信仰の火が再び燃え上がったのは、一五九五年から太閤秀吉が始めた伏見城築城に伴う淀川普請工事に向いていた時に出会った二人のキリシタン武士によってでした。二人はこの「迷える羊」を教会に連れて行き、宣教師のもとへ導きました。

メルキオール熊谷の父は、一五九九年秋、イエズス会のイタリヤ人宣教師チエリソ・コンファロニエーリ神父と一人の日本人修道士が広島に来訪し、広島に最初の教会と信仰共同体が誕生しました。メルキオール熊谷の「第二の回心」の美しい実り

「彼は神の恩寵のおかげで完全に回心し、教会の神父に次

「彼は神の恩寵のおかげで完全に回心し、教会の神父に次

「彼は神の恩寵のおかげで完全に回心し、教会の神父に次

「彼は神の恩寵のおかげで完全に回心し、教会の神父に次

# 今、殉教を生きるとは？

～各地のようす～

1月・2月に広島教区では、各地で3つの殉教祭や巡礼が行われました。その様子を少しずつお知らせします。今後も各地で様々な行事が開催される予定です。



この度決定した「ペトロ岐部と187殉教者列福」のロゴ

## 聖トマス小崎殉教碑 徒歩巡礼

一月二十日(日)約百三十名の方々の参加により三原教会主催で行われました。遠くは兵庫や長崎からも来られ、教区内では岡山・福山・尾道・三篠・廿日市・東広島・長府等の各教会から参加されました。本年はこの徒歩巡礼が百八十八殉教者列福の年の初めを飾る巡礼行事ということで、三末司教をお招きしミサの司式をしていただきました。

ミサの後、毎年恒例のカレーの食事を皆さんでとり、三原教会を十一時三十分に出発しました。当日はこのほか厳しい寒さで、みぞれ交じりの雪に濡れながらの巡礼となりました。三原教会から聖トマス小崎殉教碑を経てJR本郷駅まで、約十三キロメートルの道のりを八十五名の方が事故もなく歩かれ、JR本郷駅に十五時二十分到着。気温六度以下という寒さの中での徒歩巡礼でしたが、日本二十六聖人が長崎まで歩かれたことを偲ぶ、良い巡礼となりました。

## 岡山市内巡礼 今年も岡山南教会から！

二月二日、小雨の中を岡山南教会へ三十九名の方が集いました。岡山教会・岡山南教会を始め玉野・水島そしてお隣の広島県の福山からも。後藤神父様は岡山教会から歩いて来られたとか。雨天の為、聖堂で玉野教会の金神父から学生の時の思い出の聖人コルベ神父の愛の死の話とともに「今、殉教を生きるとは」について聞き、共に祈り黙想をしました。十四時に出発、旭川の住吉宮く松寿寺を経て市立図書館で小休止。ここまでは一団となって進み、これから岡山教会へは足の速い方とゆっくりの二つの集団になって、小雨の中を祈りながら全員十六時半過ぎには岡山教会に到着。聖堂でまとめの祈りの後ホールにて懇親の茶話会で冷えた体を温めました。

## 第二十五回「広島キリシタン殉教祈念祭」開催！

「広島キリシタン殉教祈念祭」が二月十一日(祝日)十時より広島己斐ノートル

（二面より続く）

本部専従職員の採用が決定し、四月からシスター山本（援助修道会）が着任することになった。これからの本部の活性化が大いに期待される。

また平和の使徒推進本部としては、JICARM（難民移住移動者委員会）との情報共有、連携も大きな課題であり、協働しながら推進していく予定。

③平和推進チーム、養成推進チーム、きょうどう推進チームの取り組み状況

平和推進チームは、推進チームとしての体制の確立が最大のポイント。二月に各地区で行われる平和行事への関わり、八月の平和行事における平和行事実行委員会との関わり、JICARMとの関わりが最重要課題である。

養成推進チームは、「み

ダム清心学園入り口に建立されている「キリシタン殉教之碑」前で約百三十名の信徒が参列して三末司教による「殉教碑前のお祈り」からスタートしました。

ことばの分かち合い」「集会祭儀司式者・聖体奉仕者養成における養成担当班の設置」「教会学校リーダー養成」については、今後も強力に推進していく。

また、山口島根地区養成委員会における福岡黙想の家での研修を、ステップアップ（知的レベル重視）して今年も継続していくため、他地区にも呼びかけて拡大していく予定。

きょうどう推進チームは、「十年後の宣教の拠点」「各課題別サミットの将来開催」が、今後の課題。昨年実施したアンケートの集計は、各小教区に配布したので参考にしてもらいたい。

以上のような内容が話し合われた。

信徒の皆さんからの、平和の使徒推進本部に対するご意見、ご要望をお聞かせください。

本年は二十五回目という節目を迎え、且つこの広島の地で殉教された三名の方（フランシスコ遠山甚太郎、マチアス庄原市左衛門、ヨアキム九郎右衛門）の列福

が認められたということ、参列者一同喜びに満ち溢れた表情でした。その後、観音町教会まで十五分の道のりを皆で巡礼し、三末司教司式による「殉教祈念ミサ」が執り行われました。ミサは十二名もの司祭団による共同司式でした。信徒の参列者は各地より約百八十名あり、観音町教会の聖堂は満杯状態でした。ミサの中で司教は「今年は特に歴史的にも記憶される日本の百八十八名の殉教者が、十一月二十四日長崎にて列福されることは私達にとって大きな喜びであり光栄でもあります」と話されました。

殉教ミサ後、ひき続き祇園教会の主任司祭山根敏身神父の広島可部町三入（みいり）の出身で一六〇五年萩で殉教した「熊谷元直」についての講話を聞きしました。

その後、観音町教会のヨゼフ館二階に移動し、司教様を囲んで食事を共にしながら、楽しく分かち合いの時を過ごした後、十三時三十分閉会致しました。

**司教叙階記念と  
司祭・修道者の  
金祝・銀祝のお祝い**

六月十五日（日）三末篤實司教叙階二十三周年記念と司祭・修道者の金祝・銀祝のお祝いが山口教会で行われる。時間は十四時から。

**金祝**

**【司祭】**

- ・イエズス会  
カンガス神父

**【シスター】**

- ・援助マリア修道会  
Sr小宮山もと
- ・キリスト・イエズスの宣教会  
Srユリアナ・バサン

**銀祝**

**【司祭】**

- ・教区  
瀧井英昭神父
- ・イエズス会  
オレグ神父

**【シスター】**

- ・カルメル会  
Sr高橋ちず子
- ・援助修道会  
Sr林 朋子

**広島教区司祭人事異動**

名前  
新（旧）

**イエズス会**

- 三宅 秀和  
長束修道院（出雲教会）
- 外川 直見  
長束修道院（古江修道院）
- 李 聖一  
幟町修道院（古江修道院）
- Br松島忠雄  
幟町修道院（古江修道院）
- 牛尾 幸生  
庚午カトリックセンター（古江修道院）

**Brマヌエル**

- 高橋 義博  
江修道院

**百瀬 文晃**

- 山口レジデンス・協力（下関ブロック）
- 山口レジデンス・協力（サバティカル）

**李 相源**

- 下関ブロック彦島教会・担当（フィリピン）
- 東京SJハウス（山口サビエルセンター）

**淳心会**

- バンカンスベルゲ  
淳心会レジデンス（幟町教会・モデラトル）
- ムツシエ  
大阪YCWセンター（倉敷ブロック・モデラトル）
- レネ  
倉敷ブロック・モデラトル（倉敷ブロック・チーム）

**ブレイズ**

- 倉敷ブロック・チーム（倉敷ブロック・助祭）

**ジェリー**

- 呉教会・主任（幟町教会・チーム）
- 倉敷ブロック・チーム（姫路）

**ミラノ宣教会**

- アルベルト  
司教館・司教秘書、幟町教会・協力司祭（司教館、観音町教会在住）

**教区司祭**

斎藤 眞仁  
司教総代理（司教総代理及び広島地区長）

**原田 豊己**

本部事務局・局長、翠町教会・担当（松江教会・主任）

**後藤 正史**

広島地区長・幟町教会・主任（岡山鳥取地区長・岡山教会・モデラトル・ゆりかご保育園施設長）

**澤野 耕司**

休養及び研修

**深堀 升治**

松江教会・主任（呉教会・主任）

**萩 喜代治**

岡山鳥取地区長、岡山教会・モデラトル・ゆりかご保育園施設長（岡山南と玉野教会・主任、ゆりかご保育園園長）

**野中 泉**

岡山教会・チーム司祭（向原教会・担当）

**瀧井 英昭**

岡山南教会・主任、ゆりかご保育園園長（米子教会・主任）

**西江 和司**

米子教会・主任（本部事務局・局長、翠町教会・担当）

**金 起瑩**

（キム・キヨン）  
玉野教会・主任（岡山南と玉野教会・助任）

**姜 祐顯**

（カン・ウヒュン）  
松江教会・協力司祭（司教館・日本語研修）

**李 尚潤**

（イ・サンユン）  
日本語研修（プサン教区）

**マリウス**

ポーランド帰国（福山教会・助任）

## ラ・サール会館 取り壊しが決定



ラ・サール会館は、老朽化が進み、本格的な改修工事が検討されてきた。しかし、昨年末の建物診断の結果、決定的な耐震強度不足が指摘され、「このまま使用することは安全責任上好ましくなく、早急に建物を取り壊すことが必要である」との判断から、取り壊しが決定された。ラ・サール会館に代わる建物の建設に関しては、解体とは別に検討していく予定。解体時期は、今春三月下旬となる。

ラ・サール会館 (旧司教館)  
木造瓦葺二階建  
一九五五年五月二十七日建造

る。

建物がなくなると同時に歴史は途絶えるが、何時までも記憶に止めておきたいものであり、この機会に、野間重信神父にお話を聞く。

### 【思い出】

ラ・サール会館が復活祭後、取り壊されることになった。真に残念ではあるが、耐震性の問題であり、どうにもならないようである。

この建物(教区長館)が出来上がったのは、一九五五年から五六年の間であろうと思われるが、萩原教区長の時代であることは間違いない。当時の建物としては、斬新でシャレた設計であり、中国新聞にも紹介されたくらいである。設計者は、北村さんという信者さんではなかったらうか。

### 【もつと古い教区長館】

カトリック会館ができるまでは、職町教会の受付の壁に掲げてある青葉さんの絵のような、三階には三角窓がついた一見ロマンティックなドイツ風の建物が建っていた。設計者はドイツ人修道士イエズス会のグロ

ッパという人である。グロッパさんは、日本の大工さんが吃驚する程太い柱を使う人だったようである。そのため、原爆でも潰れず、その後火事によって焼失したのであった。戦後間もなく、廃材を集めて前と同じように再建されたのであるが、それも新しい建物のために取り壊されてしまった。

### 【三羽の鳥】

面白いエピソードがあるので書いておこう。職町には当時三羽の鳥(トリ)が住んでいるという噂が流れた。はて何の事か?それは①草トリ、②サントリ、③サトリである。草トリは萩原教区長様で、お暇な時よく庭に下りて草トリをしていらつしやった。サントリはイエズス会の小出神父様で、何時もサントリーの瓶を手放せなかったとの事であった。最後にサトリは、ラ・サール神父様である。禅の道に深く入って行かれ、いわゆる「悟り」の境地に達しておられたという事である。(ラ・サール会館はこの神父さんから名前をいただいています。)

何にしても終戦後最初のクリスマスは豊一豊分のトタン小屋でミサが献げられ、グロッパさんの建物は昭和二十二年頃に再建され、一階は司祭館、二階は聖堂兼教区長館であり、多くの人々がそこで洗礼を受けたのである。私自身も昭和二十三年九月に受洗の恵みに浴したのである。

### 【一番の思い出】

ラ・サール会館は、先ず教区長館として建てられ、昭和三十四年(一九五九年)五月から野口司教様の着任により司教館となった。昭和五十六年(一九八一年)二月五日には、歴史的な平和アピールを平和公園で発表されたヨハネ・パウロ二世教皇が昼食をお取り



ラ・サール会館玄関にて

になる場所となったのである。今も使われている一階の食堂で食事がなされた。アンデルセンの出張サービスで準備され、広島市内の女子修道会の院長方が給仕を務めたのであった。食後二階の司教様の部屋でしばし休息をお取りになったのであるが、その時お座りになった肘掛のついた椅子は何処かへ行ってしまっても残念。

司教館は、野口司教様の後三末司教様をお迎えして、当分の間そのまま使用された。カトリック会館ができてから司教館としての役割を終え、ラ・サール会館と名付けられ、今日にいたっている。

### 【今後の事】

建物は、様々な活動グループや、宿泊施設などとして幅広く活用されてきた。これらの活動の移転先は未定のところが多いが、青少年情報センターは、カトリック会館一階に、広島信望愛学園事務局は観音町の暁の星幼稚園横の建物に移ることが決まっている。

# 地区便り

## 山口・島根地区

### 《修道者大会について》

二月十一日、山口に司祭・修道者が集い、イエズス会の具神父による「信仰と典礼」についての講演とミサが行われた。

### 《信者養成研修出前と

#### 修了研修》

二月十日に、教区養成推進チームの岡山鳥取地区メンバーと一緒に鳥取教会出前に出かけた。三つのグループに分かれ、「七ステップの祈り」を実践。分かち合うことの恐れや不安が先に立つが、みことばに触れ、共に祈る体験が不安よりも喜びを皆に感じさせてくれたように思う。

二月十六日〜十七日にかけて、福岡黙想の家で十期生の修了研修が行われた。病氣治療で前回の研修会を休まれた講師の松田清四朗神父も来られ、研修生・スタッフともに七ステップの祈りを深め、派遣の意味を考えた研修となった。

次年度は、履修生対象の

研修を福岡で、基礎研修は各小教区・ブロック・地区を回って行うように計画を立てたい。既に、米子教会から十月に出前の希望が出ている。



夜の典礼（福岡黙想の家）

### 《正平協ヨハネ・パウロ二世 教皇来広記念講演（防府）》

二月二十四日に、九州大学名誉教授の秋吉久紀夫氏を講師に、「ミャンマー（ビルマ）」の歴史や現状について講演と分かち合いが行われた。キリスト者として、真の「正義と平和」とは何かを考えさせられた。

## 広島地区

### 《ヨハネ・パウロ二世教皇 来広記念行事》

二月二十四日、ヨハネ・パウロ二世来広二十七周年

を記念して、世界平和記念聖堂で「平和祈願ミサ」が行われた。参加は約五百名。三末司教は、ヨハネ・パウロ二世が広島で行われた「平和アピール」は、二十七年経った今もなお社会の中に生きている。私たちは、広島教区から世界に向けて広くこの精神を伝える責務があると説いた。

ミサ後、「未来をあきらめない」というタイトルで倉光誠一さん（倉吉教会）と平和の使徒推進本部本部長の祇山登さん（呉教会）の対談が行われた。

記念行事は、広島で活躍する春秋楽団のミニコンサートで締めくくられた。



対談  
（左・倉光さん 右・祇山さん）

## 海峡からの風 10

下関労働教育センターだより

●「マイノリティー（少数）でいいじゃないですか、むしろマジヨリティー（多数）になったらいけない」。センターでこんなやりとりがあつたそうです。市民運動の訴えが必ず国や地方自治体に受け入れられるということはありません。ある人が「どうしたらマジヨリティーになれるのだろうか」という一言に、仲間が冒頭の意見を言つたそうです。●先日「マリア」という映画を見ました。イエズス誕生までの若い夫婦の物語です。この名も無き夫婦の境遇を現代的に言う、「難民の地位に関する条約」（難民条約）の対象者だということですから。この条約では、難民とは、「人種・宗教・国籍・政治的信条などが原因で、自国の政府から迫害を受ける恐れがあるために国外に逃れた者」とされています。ヘロデが出生した男子を殺させ、夫婦はエジプト

に逃避します。イエズスは「難民の子」でもあつたわけです。●難民や差別される人たちは多数派でももちろんありません。常に多数が少数を圧迫します。人間へのギフトとして神から贈られたイエズスが、マイノリティーとして出生したからこそ、人間が抱える問題、苦しみや悲しみを共有できたのでしょうか。●多数派に身を置くと、人は多々大切なことが見えなくなってしまう。実生活で北社会に住んでいる私たちは、構造的な圧迫を南社会に強いています。その意味では私たちはマジヨリティーなのです。しかし、そう言つた現状でも、例えばフェアトレードや貧困国の債務を帳消しする活動に取り組むことは、「心におけるマイノリティー」ということではないでしょうか。●イエズスがマイノリティーとして生き残ったのも、「心でその立場から考えなさい」ということなのかも知れません。

（細江教会・廣崎隆一）

岡山・鳥取地区

《平和推進》

教皇来日記念平和行事を二月二四日に倉敷教会で行った。平和アピールを取り入れたミサに続き、信徒のシンポジウム「平和の使徒に向かつて」は約六十名参加。生活での平和の実践が語られ、分かち合った。各小教区では多言語訳「平和アピール」を配布した。《きょうどう》

本年度、行ったアンケートで小教区の実態と信者の意識が把握できた。まとめ資料を各小区に配布したので活用してもらいたい。次年度は一歩一歩、「協働」のあり方を考察する。

《養成》

集會司式者・聖体奉仕者養成講座・テーマ「めざめよう、信徒の奉仕職」を四月から六回にわたって倉敷教会で行なう。《ともに歩む旅》

入門講座に加わる新講座を倉敷教会に続き、五月から岡山教会が始める。



J-CARM広島西地区

《フライリピン人協会》の誕生と活躍ぶり

幟町教会 杉田 靖子

広島市とその近辺小教区における日本人信徒と外国人信徒の「共生」「協働」をめざす活動のひとつの好例として注目される《広島フライリピン人協会》の急速な活躍ぶりを紹介します。

《協会》は昨夏ジェリー神父とシスターカルメンの助力により組織されてまだ間もないのに、昨秋のビンゴ大会での盛り上げをクリスマス会につなげて一〇〇人以上のメンバーを集めて一気に結束を固めた。さらに新年度向けの多彩な行事を計画し、今活発に取り組んでいる。実現に向けて皆で支援したい。

特に注目したい点は、ラズガル会長の「協会の仲間うちにとどまらず日本人信徒、教会、ひいては広島、日本に役立つ我々でありたい！」という方針だ。

これまでも日曜学校・ミサ・教会バザー・復活祭ファミリーデーなどでかなり共に奉仕し交流してきた

が、さらに「沖に漕ぎ出し」、日曜朝ミサ後のガーデンカフェの手伝い、葬儀や結婚式の婦人会奉仕へ参加し始めた。

花見・サマーキャンプ・広島市のフラワーフェスティバル参加などのふれあい行事の他に、グループ黙想会や教育的な講演会の計画もある。

又、無料のパソコン教室や日本語／英語教室を教会内で持てるなら学習・趣味面の交流になるのではないかと提案している。メンバーのある婦人は「美しい日本語を教えてもらえるチャンスが欲しい」と言い、「学校の国語宿題を見てくれる人はいないかなあ」と言う子どももいる。逆に英語を習いたい日本人信徒もいることだろう。

なお《協会》は七月に平和公園清掃を計画しているが、これまた日本人信徒も共に参加したいものだ。

カトリックの雑誌 10

『月刊 福音宣教』

オリエンズ宗教研究所

「福音宣教」は、日本のカトリック教会において、福音宣教についての意見や体験、願いや祈りをなど、誌面を通じて分かち合い、神のみこころがこの日本社会で叶えられるように、信徒一人ひとりと与えられた使命を生きる上で情報を提供することを目的とした月刊誌です。司祭、修道者ばかりでなく、宣教の使命に気づき、それを使徒職として生きようとする多くの信徒にも読まれています。

待が寄せられています。今年度はヨハネ福音書八章31-38節より「真理はあなたたちを自由にする」をテーマとし、一月号は「若者と自由」二月号は「家族と自由」三月号は「心と自由」と題して、巻頭にインタビュー記事を掲載し、毎月の特集を企画しています。

一九八四年に司教団が「日本の教会の基本方針と優先課題」を発表して、福音宣教への取り組みをはっきりと意識したことをうけて、翌八五年に「布教」誌から「福音宣教」と誌名を刷新して再出発して以来、二十四年の刊行を続けています。残念ながら今日ではカトリック教会で唯一の月刊のオピニオン誌となつてしまいました。なお多くの期

また、年間連載として、溝部脩司教「殉教者から現代へのメッセージ」、カルメル会司祭九里彰師「見よ、畑は色づいているーキリストの目に映じた世界」、立教大学名誉教授鈴木範久氏「近代日本における信教の自由の歩み」、そしてイエズス会司祭光延一郎師「真理と自由、まことと恵み」が始まりました。御受難会司祭国井健宏師「ミサ」、東京教区司祭晴佐久昌英師「福音宣言」、援助修道会会員原敬子氏「良き知らせが響きわたるためにーカテケージスという言語」も連載を継続中です。

●オリエンズ宗教研究所 (電話) 〇三ー三三二二ー 七六〇一

《青少年の活動》

全国の青年の集いに  
参加して

二月九日、十日と鹿児島純心女子学園江角記念セミナーハウスで行われた、NW M(ネットワークミーティング) in 鹿児島に参加してきました。NW Mはカトリックの青年、青年活動を支えている信徒・修道者・司祭が自由に集い、情

報交換と交流を目的としています。今回で、十四回目を迎え、北は札幌、南は鹿児島より十四教区の青年、司祭が鹿児島へ集まりました。屋外でのフィールドワークやグループに分かれて教会活動の夢の話などをして分かち合いをしました。キャンドルを灯して夕の祈りも行いました。交流会では、奄美大島や北海道の青年と話すことができ、文化

の違いに驚きました。環境も状況も異なる中で、《主キリストにおいて一つになる》喜びを体験することができました。出合いや準備をしてくれたスタッフに感謝したいと思います。

教区三地区合同新年会

一月二十六日、二十七日、山口カトリックセンターで広島教区三地区合同青年

新年会が開かれました。参加者は二十七名、遠くは大阪からのゲストもありました。プログラムは、シスターによる祈りの時間、山口の青年たちが鍋と郷土料理を準備してくれた夕食を取りながらの交流会、分かち合い、青年のミサなど。

分かち合いでは新年へ向けて決意を新たに、各地区の情報交換や青年大会に

お知らせ

教区青年大会2008

青年大会とは、『教区内の青年のつながりを深めること』を目的として、〇七年から始まった教区青年の集まりです。青年の皆さん、参加してみませんか？  
日時：四月二十六日(土)、二十七日(日)

場所：エリザベト音楽大学  
西条学舎

対象：青年(高校を卒業した年から)

費用：三千五百円

詳しくは、各小教区配布のチラシまたは青少年情報センターのHPをご覧ください。



「私たちは信じます」

福山教会

マリウス・パステルナック神父

私たちは、信じながら神に従い、従いながら正しく生き、正しく生きながら心を清め、心を清めながら信じていることを理解するために、使徒信条を唱えます。

「私たちは信じます。」これは主として洗礼の時、信じる者の一人ひとりによって個々に宣言される教会の信仰です。

「私たちは信じます。」これは聖体祭儀に集まった私たちがいつも繰り返す公の信仰です。広島や福山の信者さんに感謝します。長い

間一緒にこの信仰宣言を唱えることができたことを本当に嬉しく思います。

聖パウロの手紙には感謝に始まり、感謝に終わって

いるものが多いですが、それはいつも主イエスとの関わり表わす感謝となっております。どんなことにも感謝しなさい。これこそキリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。わたしも同じようにします。まず三末司教に感謝します。そして、わたしの主任司祭で指導者だった早副神父と服部神父に感謝します。また一緒に働いたアルナルド神父、ギヤリー神父、尾島神父に感謝します。最後に広島教区の神父たちに感謝します。皆さん本当にありがとうございます。



新しい編集部員になってもうすぐ一年が過ぎようとしています。これからは協力し合い更に発展して行くことを祈りながら。(Y)



(57)